第３９回　京都市廃棄物減量等推進審議会　摘録

【日　　時】平成１８年１２月２１日（木）　午後２時～４時
【場　　所】京都ガーデンパレス　鞍馬の間
【出席委員】高月会長，浅井委員，石野委員，伊藤委員, 今西委員，佐伯委員，
酒井委員，新川委員, 髙橋委員，竹本委員, 中島委員，堀委員，
松本委員，宮川委員, 山内委員
【欠席委員】郡嶌委員, 北本委員, 小堀委員，原委員，槇村委員

１　開会

高月会長からのあいさつ。新任委員の紹介。

２　報告事項（市民等の関心が特に高い有料指定袋制の実施状況の報告を最初に行う。）

（１）有料指定袋制の実施状況

事務局から有料指定袋制の実施状況について資料に沿って説明

（宮川委員）

チェーン協加盟各社の店頭回収リサイクルの状況を各社に確認したところ, 有料化後のペットボトル回収状況が昨年比で５００％増, アルミ缶が４００％増しているとの報告を受けている。また, 食品トレーについても非常に増加している。

現在各家庭に配布されている訂正ビラにも記載されているが, 従来であれば９割程度が適合物であったが, 有料化後は適合物が８割程度になり, ２割が生ごみ等も含めて不適合なごみを排出されている。そうしたことについてもう少し啓蒙等をお願いしたい。

また, 訂正ビラの真ん中ぐらいにある「資源ごみの店頭回収にご協力いただいている皆様へのお願い」はお客様が店頭回収に出す人であるため, そうした人に対してなので「皆様からのお願い」ではないか。

この訂正ビラについては字が少し細かい。

（中島委員）

１０月からの有料指定袋制は９９％の指定袋での排出状況という結果はすばらしい。ただ, 京都新聞社が出している袋が, 資源ごみの中に複数排出されており, 色や結び方の問題なのか職員が見間違い全部収集もされている。意図的に排出されているのか, 一度収集されるとまた排出されるので収集の職員に気を付けていただきたい。

また, 紙おむつがなぜ４月以降の出生なのか意図が分からない。３月に生ま

れた方がたった１ヶ月の違いで配布してもらえないことについて教えていただきたい。

（高月会長）

いろいろな事が出てくるかと思いますが，きめ細かな対応をお願いしたい。全体的にみると予想以上に不法投棄も増えなかったため，スターとしてはまずまずという感じである。

ただし，１年ぐらいは様子をみないと何とも評価できないと思う。

３　議事

（１）「京のごみ戦略２１」の進捗状況について

①進捗状況と今後の方向性について

事務局から資料に沿って説明

（堀委員）

この評価は京都市の自己評価でいいのか。また，今後の取組について，すべての分野について実施していくつもりなのか，項目を絞って重点的にやっていくのか。

施策の中で「市民の自主的な取組」の中の「グリーン購入の促進」に◎がついているが，事業の中での京都市の動きに関しては◎ではないのではないか。

評価する前段として，「市民の自主的な取組」については，そこに関わっている市民と一緒に評価・検討する必要がある。

（高月会長）

評価については，判断が非常に難しいと思うが，少なくとも「市民の自主的な取組」，「事業者による自主的な取組」については，京都市が独自に評価するのではなく市民，事業者の意見がある程度反映する方がいい。

（浅井委員）

評価の右側欄に効果を明記すると分かりやすい。ごみが減った結果，地球環境・地球温暖化防止に対してどのような影響があったのかの説明も入れる方が分かりやすい。

（事務局）

施策の効果，数値目標に対する達成状況については，「年次報告書」の中で数値を明記していく。また「地球温暖化防止」の効果についても明記したい。

（高月会長）

最終の数値だけでは分かりにくいので，効果（数値）の内訳・理由等につい

ても明記するほうがいい。

②年次報告書の作成について

事務局から資料に沿って説明（年次報告書は全体で 60 ページ程度, 3 月末までに作成し, 次回の審議会で報告したい。）

（高月会長）

ごみ以外の他の環境分野についても同様の報告書はあるのか。

（髙橋委員）

地球温暖化対策条例の中の計画については, 評価委員会を設置し, 各施策の評価を行い, 次の改正時に何が必要かについての議論を行う。

（高月会長）

評価や税金の使い道について市民に見える形で報告することは望ましい。

年次報告書にコスト関係が触れられていないが, 出せる範囲で明記する必要があるのではないか。

（酒井委員）

そもそも, 年次報告書と自己評価の順序が逆ではないか。現在の評価については暫定的な評価だと思うが, 年次報告書を作成する中で適時見直して欲しい。

また, 計画策定時（平成 15 年）の枠組みだけにこだわって評価するのではなく, 有料化財源を活用した新たな事業等についても評価の対象に入れたほうがいい。

また, 家電リサイクル法等, 市の手から離れた事業が多くあるが, 一方で不法投棄の問題もある。こうした事業についても数値把握・整理を行い, 全体の議論に反映させる等柔軟な対応をお願いする。

（浅井委員）

1 月の市民アンケートの中でどんな種類のごみを減らしたのかを知らして欲しい。

水銀, カドミウム, 鉛等の量の把握についてだが, こうした有害物質は一般の製品の中にも入っており, 市民の誤解がないようにして欲しい。

また, 環境経営の視点から中小企業や製造業等に KES の取得をお願いしたい。

（松本委員）

１１月 1 日から商店街では独自のマイバッグを作成し, 1,000 個配布したところ好評であった。そのマイバッグを持参すればポイントを優遇することをし

ている。
　市とともにマイバッグの持参促進に取組んでいきたい。

（中島委員）
　市民はごみを減らしたいのに，商品を買った時点で結果としてごみが付いてくるものが多くある。市民，行政だけでなく事業者側にも考えもらわないといけない。買う時に必要でないものはもらわないようにできる仕組みづくりが必要である。

（事務局）
　上流対策については消費者だけでなく，事業者がいかにごみを出さないものづくりをするかにかかっている。今回の年次報告書については，市民だけでなく，事業者がものづくりの際の製品アセスメントの参考となるような情報も工夫して盛り込みたい。

（高月会長）
　市民サイドからトレーをはじめとする食品包装についての必要性の有無等をリストアップしたうえで提案し，行政を含めて事業者と議論していく必要があるのではないか。

（堀委員）
　進捗管理の実施について，どのように評価したのかという評価の仕組みや行政のみでやっている事業もあれば，事業によっては行政と市民と事業者が一緒にやっているものもあるので，そうした事業推進の仕組みについても説明が必要である。
　また，実施したいけど出来ない事業の情報（ネガティブ情報）等も市民に開示してもいいのでないか。
　2 年目以降については報告書を見た市民の意見についても載せていった方がいいのではないかと思うが，最初は学識経験者の報告書に対するコメントがあってもいいと思う。
　コスト情報や家電リサイクルの情報等を載せることで，国全体の法律に対して自治体の費用負担の根拠資料としても活用できたらいいのではないか。

（２）めぐるくんの店制度の拡充に向けた見直しについて
事務局から資料に沿って説明
（山内委員）
　改正することは重要なことで結構だと思う。ただし，めぐるくんの店に繋がりがないことが問題である。組織までいかなくてもいいが，連絡会的なものを

つくって欲しい。

4　報告事項

（１）マイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定について

事務局から資料に沿って説明

（石野委員）

マイバッグ持参率がまだまだ低いので，お店でマイバッグを持参して買い物をした場合のメリット等について目立つように掲示したり，お客さんに積極的に声掛けをするなどレジ袋を断ることがしやすい環境づくりに取組んで欲しい。

（松本委員）

商店街ではそもそも配布するレジ袋は少ないので，スーパーや百貨店等を中心に検討してもらうほうがいいのでは。

（中島委員）

マイバッグ持参率がどんなに高くても２０％以上あがってこない。まだまだレジ袋をもらっている人が多いのが現状である。個人的にはレジ袋は将来的にすべて有料化でもいいのではないかと思う。

（今西委員）

レジ袋の有料化に対しては地域の支持，地域との連携が必要だと思う。イオンと共同してアンケートも実施した。

（宮川委員）

今回の募集期間はタイトである。機関決定の時間が取れない。

（伊藤委員）

共働き世帯等は１週間に１回の買い物で量も多いので，ラックみたいなケースをスーパーで用意する方法等でもレジ袋の削減につながる。

（２）許可業者搬入手数料改定等に伴う京都市事業系ごみ減量等推進三者協議会における取組について

事務局から資料に沿って説明

（新川委員）

許可業者手数料の改定の普及・啓発を有料指定袋制と混同されているケースがあった。下京区等には店舗兼住居も多いため，混同するのも理解できる。まだまだ家庭系・事業系のごみに対する意識が低い。

家庭系のごみ適正排出率９９．７％で終わってしまうのか。本当に現状を把握しているのか。審議会の中でも数字だけを追いかけるのではなく，目線を下げることも必要。
許可業者手数料の改定は大変である。今後，排出事業者の理解と許可業者の粘り強い交渉が必要となる。

（佐伯委員）
少量排出のお年寄りの方のために指定袋の販売が 5 枚単位であってもよいのでは。

（竹本委員）
百貨店でも食料品売り場でレジ袋を配布しているが，重たいものに対する 2 重袋を控えたり，複数の袋を１つにまとめる等できることからやっていきたい。

（堀委員）
指定袋の家庭ごみ 20 リットルを作って欲しいという市民要望をよく聞く。運用面が難しいが，学割が欲しいという意見もある。
ごみ戦略２１の今後の取組みのリーディングプロジェクトは上流対策になると思うが，その中でどの項目になるかは今後検討していくのか。
めぐるくんの店については，取組が高まっていく仕掛けとして数値目標が入ってもいいのでないか。
レジ袋の募集・集約を京都市が集約するのはいかがなものか。

（高月会長）
今後は，有料化活用財源を使った事業を実施していくことになるが，ごみ減量推進会議がその事業実施の中心となっていく。そのことからも，ごみ減の事務局・スタッフ等の体制整備について配慮をお願いしたい。

（髙橋委員）
出来るだけのことはやっていきたい。

（３）今後のスケジュール
次回は年次報告書の報告，平成 19 年度予算を中心に 3 月 27 日（火）午後に実施させていただきたい。

5　閉会